九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

意味とスケール ： 度合いが関わる表現の統語論

東寺，祐亮

https://doi.org/10.15017/1543913

出版情報：九州大学，2015，博士（文学），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

（様式６－２）

氏　　名	東寺　祐亮
論　文　名	意味とスケール：度合いが関わる表現の統語論
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　上山　あゆみ 副　査　　九州大学　　教授　　久保　智之 副　査　　九州大学　　准教授　下地　理則 副　査　　九州大学　　准教授　青木　博史

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

本博士論文は、統語意味論の枠組みで日本語の３つの構文を分析し、その意味解釈に関わる統語操作を明らかにしたものである。

統語意味論とは生成文法の１つで、とりわけ語彙特性・統語操作・意味解釈の関係を明示的にすることを重要視する枠組みである。統語意味論はまだ誕生して間もない方法論のため、分析の基本的方針と基本的な構文の分析しか定まっていないが、本博士論文は、その枠組みを大きく拡張し、意味解釈として度合いが関与する構文において、語彙特性と統語操作が組み合わさってどのように度合いの解釈を生み出すかについて、新しい視点から提案を行なった。

従来、言語学で主流とみなされている意味論においては、度合い（degree）を個物（individual）とみなし、その個物としての度合いの集合をスケールと呼び、度合いが関わる構文の意味解釈には、スケールに対する関数が関わると考えられてきた。それに対して、本博士論文においては、個物が持つ「大きい」「美しい」等の特性は幅を持つものであり、度合いとはその幅の中の位置情報に対応すると特徴づけられている。何を個物として認めるかは奥深い問題であるが、本博士論文は、後者のとらえ方に立つと、語彙特性と統語操作に関する少数の仮定（assumption）で、可能な意味解釈の範囲を正しく予測できることを示したものである。

本博士論文で具体的に取り上げられているのは、第３章の「ポスターを雑に貼り過ぎた」という場合のスギの働き、第４章の「ポスターを高いところに貼るほど見えにくくなる」という場合のホドの働き、および、第５章の「驚くほど大きな仏像を作った」という場合のホドの働きの３つであるが、これらはそれぞれ度合いの関与の仕方が大きく異なる構文である。スギの場合は語彙的に位置情報が指定されているのに対して、ホドの場合は語彙的にはどの程度の度合いであるかは決まっていない。さらに、第４章のホドは２つの度合いが相関することを表しているのに対して、第５章のホドは「驚く」という行為個物に言及しつつ派生的に度合い情報を形成するものである。ここで提案されている分析の方法は、他のタイプの構文にも広く応用可能なものであり、本博士論文は、様々な点で新しい提案を含む精緻な理論を構築している。

よって、本調査委員会は、本博士論文の提出者が、博士（文学）の学位を授与されるに十分であることを認める。